

高等学校の種類と近年の制度改革について

長野県教育委員会 高校教育課

1 高等学校の種類

(1) 学習時間帯による分類

全日制

蓼科・望月・小諸商業・小諸・軽井沢・佐久平総合技術
岩村田・野沢北・野沢南・小海

- ・週当たりの授業時数 30 単位時間を標準（必要がある場合には、これを増加することができる）（学習指導要領 第1章第4款の2）

定時制

小諸商業（商業）・野沢南（普通科）

- ・夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程（学校教育法第4条）
- ・週若しくは1日当たりの授業時数 生徒の勤労状況と地域の諸事情等を考慮して、適切に定める（学習指導要領 第1章第4款の3）

※多部制は「定時制」に分類（例 東御清翔・箕輪進修・松本筑摩）

学習時間帯：午前部・午後部・夜間部を設置

通信制

長野西望月サテライト（令和2年～）

- ・通信制の課程の教育方法は添削指導、面接指導、放送その他の多様なメディアを利用した指導、試験によることになっているため（高等学校通信教育規程第2条）、
- ・全日制・定時制の課程におけるような授業は原則として行われぬ。このため授業時数等に関する第4款の適用は受けない。（学習指導要領 第3章7節）

※県内公立通信制 週1日の「面接授業」（スクーリング）

望月サテライトは、毎日登校可とし、地域連携キャリア教育等導入

(2) 学ぶ内容による分類

普通科

蓼科・望月・小諸・軽井沢・岩村田・野沢北・野沢南・小海

- ・普通教育を主とする学科（文部科学省 高等学校設置基準第5条）

専門学科

職業科：佐久平総合技術（農業・工業）・小諸商業（商業）
特色学科：小諸（音楽）・野沢北（理数科）

- ・専門教育を主とする学科（文部科学省 高等学校設置基準第5条及び6条）
- ・専門教科（科目） 25単位以上（学習指導要領）

※「総合技術高校」 学科間連携により、他学科と協働した学びを実践

総合学科

佐久平総合技術（創造実践）

- ・普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科（文部科学省 高等学校設置基準第5条）

※多様な選択科目を学び、自分の適性を発見する学び

※特定の専門教科（科目）を25単位以上で「専門科と同等」の扱い

3 近年の制度改革（学びの弾力化）

(1) 単位制

- ・学年による教育課程の区分を設けない仕組み（文部科学省）
- ・昭和 63 年 定時制・通信制で導入→平成 5 年 全日制で導入

(2) 修業年限

- ・定時制・通信制の修業年限を「4年以上」から「3年以上」に改正（平成 4 年）
※全日制と同様、3年で卒業が可能となる

(3) 学校外における学修の単位認定

- ・学校外の活動の成果を、在籍の高等学校の単位として認定
- ・平成 5 年から導入され徐々に拡大
- ・認定単位数の上限拡大 20 単位から 36 単位

例)

- ①学校間連携（他校で単位取得）
- ②大学等での学習
- ③知識・技能検査（資格）
- ④ボランティア、スポーツ、文化活動等
- ⑤高等学校卒業程度認定試験
- ⑥別科における学修（自校の別科）
- ⑦定通併修（定時制の生徒が通信制で単位取得）

県立高校「未来の学校」構築事業 研究校の決定について

高校教育課
学びの改革支援課

1 趣旨

「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」に基づき、「未来の学校」として先進的・先端的な研究開発に取り組む実践校を指定することにより、長野県高校教育をけん引する新たな学びの場、学びの仕組みを構築する。

これに向けて、2019年度は研究校を指定し、有識者であるアドバイザーの指導・助言・協働を得ながら研究開発計画を作成し、年度末にその計画を具体的実践する実践校を指定する。

実践校は、2020年度以降概ね5年間研究開発に取り組み、検証・評価を行うとともに、成果の普及につとめる。

2 「未来の学校」研究校

種別 (略称)	研究開発の概要	研究校
卓越した探究的な学びを推進する高校 (スーパー探究校)	大学・研究機関等と連携して、現代の最先端の学問分野を視野に入れた卓越した探究的な学びを創造することにより、研究に対する意欲と目的意識、社会貢献に対する高い志と広い視野を育む。	野沢北高等学校
信州に根ざしたグローバルな学びを推進する高校 (信州グローバルハイスクール)	世界の諸課題を自分の住んでいる地域と関連づけながら、大学や学校外の団体等と協働して、社会変革や新たな価値を生み出すことにつながる課題解決型学習(PBL)を推進する。	須坂高等学校
国際的な教育プログラムを研究する高校 (国際教育プログラム研究高校)	国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築する。	飯田風越高等学校
高度な産業教育を推進する高校 (高度産業教育推進校)	独創性の開発や長期インターンシップなど、高校入学から上級学校等までの一体的で一貫した実践的教育プログラムを開発し、地方創生に資する高度な専門性や創造性を育む。	木曾青峰高等学校
少人数学級を研究する高校 (少人数学級研究校)	学級規模を縮小し、探究的な学び等について、生徒数に応じた新たな学びや指導のあり方とその有効性について仮説を設定して検証するとともに、学校運営のあり方についても研究する。	坂城高等学校
その他の研究校	現在の教育課題の解決を目的として、既存の考え方にとらわれない発想で、学校や地域の特長・魅力を活かし、多様で柔軟な学びの仕組みを創造する。	松本深志高等学校

3 公募期間及び応募校数

- (1) 公募期間 平成30年9月27日から平成31年1月10日まで
- (2) 応募校数 36校

4 決定までのプロセス

応募校から提出された企画提案書等を、県教育委員会事務局内に設置した審査委員会において、審査の観点に沿って審査し、地理的なバランスも考慮の上決定

県立高校「未来の学校」構築事業研究校のアドバイザー

種別 ＜研究校＞	研究開発の概要	アドバイザー
卓越した探究的な学びを 推進する高校 ＜野沢北高等学校＞	大学・研究機関等と連携して、現代の最先端の学問分野を視野に入れた卓越した探究的な学びを創造することにより、研究に対する意欲と目的意識、社会貢献に対する高い志と広い視野を育む。	桑田 てるみ 国士舘大学 21世紀アジア学部教授
信州に根ざしたグローバルな 学びを推進する高校 ＜須坂高等学校＞	世界の諸課題を自分の住んでいる地域と関連づけながら、大学や学校外の団体等と協働して、社会変革や新たな価値を生み出すことにつながる課題解決型学習（PBL）を推進する。	加納 幹雄 岐阜聖徳学園大学 教育学部教授
国際教育プログラムを 研究する高校 ＜飯田風越高等学校＞	国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築する。	坪谷ニューウェル郁子 学校法人 東京インターナシヨ ナルスクール理事長 高島 峻輔 特定非営利活動法人 グローバ ルな学びのコミュニティ・留学 フェローシップ代表理事
高度な産業教育を 推進する高校 ＜木曾青峰高等学校＞	独創性の開発や長期インターンシップなど、高校入学から上級学校等までの一体的で一貫した実践的教育プログラムを開発し、地方創生に資する高度な専門性や創造性を育む。	大室 悦賀 長野県立大学 ソーシャル・イノベーション 創出センター長
少人数学級を研究する高校 ＜坂城高等学校＞	学級規模を縮小し、探究的な学び等について、生徒数に応じた新たな学びや指導のあり方とその有効性について仮説を設定して検証するとともに、学校運営のあり方についても研究する。	香山 瑞恵 信州大学 工学部教授
その他の研究校 ＜松本深志高等学校＞	現在の教育課題の解決を目的として、既存の考え方にとらわれない発想で、学校や地域の特長・魅力を活かし、多様で柔軟な学びの仕組みを創造する。	荒井 英治郎 信州大学 教職支援センター准教授